

もう 盲ろう



視覚と聴覚の両方に障がいがあることを「盲ろう」といいます。見え方・聞こえ方は人によって違いが大きく百人百様ですが大きく分けると、全盲・ろう、全盲・難聴、弱視・ろう、弱視・難聴の4つに分けられます。

しょう 障がいの例 れい

もう 【盲ろうの4タイプ】

- 全盲・ろう…全く見えず、全く聞こえない状態。
- 全盲・難聴…全く見えず、少し聞こえる状態。
- 弱視・ろう…少し見えて、全く聞こえない状態。
- 弱視・難聴…少し見えて、少し聞こえる状態。

もう 【盲ろうになる経緯の例】 けい い れい

- 盲ベースの盲ろう
視覚障がいがあり、のちに聴覚障がいを発症したもの
- ろうベースの盲ろう
聴覚障がいがあり、のちに視覚障がいを発症したもの
- 先天的盲ろう
先天的に、あるいは乳幼児期に視覚と聴覚の障がいを発症したもの
- 成人期盲ろう
成人期以後に視覚と聴覚の障がいを発症したもの



こんなサポートがうれしい！

まずは、話し掛けてみてください。

困っているような盲ろう者を見かけたら、まず、肩にそっと手を触れて話し掛けてみてください。聴力が使える人もいます。もし反応がなくて聞こえないらしいと分かった場合は、やさしく手を取って、手のひらに文字を書いてみてください。この「手書き文字」という方法でコミュニケーションをとることができる人もいます。

コミュニケーションの支援や移動の介助が必要な場合が多いです。

自分の力だけで、情報を得たり、移動したりすることに困難が伴います。また、コミュニケーションを取ることが難しいので、社会的に孤立してしまいがちです。情報入手・コミュニケーションのサポートや移動の介助があれば社会参加ができます。そのようにして社会で活躍している人もたくさんいます。

その人に合ったコミュニケーション方法を見つけてください。

生活環境や視覚障がいと聴覚障がいの程度、また、その障がいの発症時期により、コミュニケーション方法が一人ひとり異なります。「手書き文字」や、相手の手話に触れて手話の形を読み取る「触手話」、盲ろう者の指を直接たたいて点字を表す「指点字」などがあります。いろいろなコミュニケーション方法を試して、その人に合ったものを見つけてください。

周りの状況を説明することも大切です。

盲ろう者は、会話の内容だけでなく、周りの状況もわかりにくい。「人がたくさん集まっていて、にぎやか」といったその場の状況を知ること大切です。会話の内容に追加して、伝えてください。

たとえば、こんなことがあります。

一人でいるときに災害が起こったら、どうしたらよいか分かりません。周りに人がいるのかが分からないため、自分から他の人に話し掛けて、その場の状況を把握することが困難です。困っていたり、孤立しているように見えたら、安全な場所への誘導や支援者につなぐなどの配慮をお願いします。

